

2021年度事業・活動報告

1. 古着類の回収とアル・カイル事業グループ（以下AKBG）への送り出し

1) 古着・毛布などの回収 2021年度計画 130トン：実績 119.8トン（計画対比 92.2%）

	回収期間	回収量	参加人数
1回目	2021年10月～12月	44,953.4 kg	6,238人
2回目	2022年1月～5月	33,630.9 kg	4,952人
3回目	2022年6月～9月	41,201.2 kg	5,608人
	合計	119,785.3 kg	16,798人

2021年度の回収は計画を130トンとしました。回収受付期間は年に3回設けました。回収量は119.8トンとなり計画を10.2トン下回りました。参加人数は延べ16,798人で、前年より延べ2,140人減りました。大手の古着回収業者の方からも回収量は前年に比べて8割ほどに減ったと聞きましたが、パキスタンへの送り出しは、前年度からの回収在庫があり計画通りに5回実施できました。

回収協力団体の皆様には積極的に広報にもご協力いただき、回収量の82.3%は協力団体の所属メンバーの方からの回収でした。会員・支援メンバーの方からの回収は11,843.4kgで、回収量の9.9%（延べ1,566人）でした。ご協力ありがとうございました。笠間市による回収協力は、選別してくださるボランティアの皆様の新型コロナ感染を避けるために、2021年度も中止となりました。

*協力団体の方々からの回収は「6. 多様な団体との連携」及び資料「2020年度団体別回収集計」をご覧ください

①地域のコミュニティスペースなどを活用した回収企画の実施

千葉市美浜区のベイタウン幕張で、地域のコミュニティスペースを利用した回収を3ヶ月に1回のペースで行ないました（回収量2,290.3kg／延べ340人）。地域に住む方たちからも広報の方法などのアドバイスをいただきました。

②情報の広がりを作るためのホームページ、SNSの活用

ホームページのフェイスブックでは、協力団体の回収企画やイベント回収、コンテナ送り出し、活動報告会などの情報を掲載しました。ホームページの回収のセンター申込み予約フォームの利用は定着してきています。

③新たな回収品目の検討 新たな回収品目の取り組みはできませんでした。

*その他の回収協力は「6. 多様な団体との連携」の7) 企業や団体、学校との協力関係をご覧ください

2) AKBGへの古着送り出し

今年度はこれまでより送り出し回数を1回増やし、5回実行しました。輸出量は計画の120トンを上回る約124.5トンを輸出しました。回収量は計画に届きませんでした。前年度から繰り越した輸出在庫や、パキスタンから輸入した古着で輸出用となった分を合わせて量を確保しました。

	JFSAコンテナ積込み	AKBG受渡し・倉庫着	送り出し量
第75回	2021年12月9日	2022年1月27日	25,031 kg
第76回	2022年1月27日	2022年3月20日	24,710 kg
第77回	2022年3月24日	2022年5月28日	24,661 kg
第78回	2022年6月23日	2022年9月2日	24,905 kg
第79回	2022年9月29日	2022年11月予定	25,280 kg
合計			124,587 kg

3) 古着販売事業

J F S Aからは5本のコンテナを輸出しました。グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部からは3本のコンテナが輸出されました。コンテナはすべて卸業者ワリー氏・ニアーズ氏に販売されました。新型コロナウイルスの影響から事務局派遣は行なわなかったため、A K B G事務局カユーム氏がコンテナの荷降ろしに立ち会い、報告を受けました。

コロナ禍に入って以降、コンテナの海上運賃は上昇していましたが、2021年10月以降、更に約40万円急騰し(コロナ以前の価格と比較すると約6倍)、A K B Gの利益を圧迫しました。また、円安とパキスタン通貨のルピー安も重なり、経費が膨らむことになりました。その結果、第76、77、78回は赤字となり、年間利益は前年度と比較して大きく減少しました。A K B Gとは年間を通して収支が赤字にならない範囲で輸出は継続することを確認しました(2022年8月以降、運賃は下落傾向にあり、第79回の利益は回復する見込み)。赤字収支となったコンテナについての対応はA K B Gと協議を行なっています。

厳しい海上輸送環境に対して、A K B Gの事業内容を見直し利益を高めることを目的に、パキスタン以外の国への古着輸出調査を行ないました。具体的には2022年9月にA K B G事務局カユーム氏とJ F S A事務局でタイ(世界有数の古着マーケットがあり、パキスタンよりも距離が近いため運賃が安い)を訪問し、調査を行ないました。また、平行してパキスタンでは需要が低い女性衣類等について、東南アジアに輸出している日本の業者にサンプルの販売を行ないました。

パキスタンでは経済状況が悪化していることを背景に輸入品に対する規制が2022年6月に発令され、第78回以降、現地で販売価格の高いバッグと生地を送ることができなくなりました。現在、今後の販路調査を行なっています。

【資料】2021年度 JFSA第75回、第76回、第77回、第78回AKBG古着販売事業収支 第79回PJカンパニー古着販売事業収支(概算)

	第75回(2022.1月到着)	第76回(2022.3月到着)	第77回(2022.5月到着)	第78回(2022.9月到着)	第79回(2022.11月到着 予定)(概算)	合計
古着等送出货量(kg)	25,031	24,710	24,661	24,905	25,280	124,587
収入合計(ルピー)	3,078,813	2,915,780	3,205,930	3,237,650	3,033,600	15,471,773
* 日本円	2,138,065	2,024,847	2,226,340	2,248,368	2,106,667	10,744,287
妥結:1KG当たり卸売価格(ルピー)	123	118	130	130	120	平均 124ルピー
経費合計(ルピー)	2,998,495	3,012,362	3,459,326	3,445,463	2,285,677	15,201,323
* 日本円	2,082,288	2,091,918	2,402,310	2,392,683	1,587,276	10,556,474
純利益(ルピー)	80,318	▲ 96,582	▲ 253,396	▲ 207,813	747,923	270,450
* 日本円	55,776	▲ 67,071	▲ 175,969	▲ 144,315	519,391	187,813
為替レート(パキスタンルピー:日本円)	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	
*海上運賃(経費のうち)	US\$6,300	US\$6,300	US\$6,300	US\$6,300	US\$1,350	

前年度純利益(第71~74回)1,363,766ルピー(922,468円)

【資料】2021年度 グリーンコープ第26回、第27回、第28回AKBG古着販売事業収支

	第26回(2022.1月到着)	第27回(2022.7月到着)	第28回(2022.9月到着)	合計
古着等送出货量(kg)	24,308	23,805	23,507	71,620
収入合計(ルピー)	2,844,036	3,094,650	1,692,504	7,631,190
* 日本円	1,975,025	2,149,063	1,175,350	5,299,438
妥結:1KG当たり卸売価格(ルピー)	117	130	72	平均 106ルピー
経費合計(ルピー)	2,621,587	3,199,166	3,667,624	9,488,377
* 日本円	1,820,547	2,221,643	2,546,961	6,589,151
純利益(ルピー)	222,449	▲ 104,516	▲ 1,975,120	▲ 1,857,187
* 日本円	154,478	▲ 72,581	▲ 1,371,611	▲ 1,289,713
為替レート(パキスタンルピー:日本円)	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	1ルピー:0.69円	

前年度純利益(第24~25回)-469,944ルピー(-299,715円)

2. AKBGとの事業連帯の推進とアル・カイルアカデミーの自立支援

パキスタンサイドで古着販売等の事業に専念し、連帯事業を発展させる事業主体の存在が必要であると判断し、現地に新会社を立ち上げるについてAKBGとJFSAで話し合いを重ねました。結果として、AKBG事務局カユーム氏を代表とする新会社、P&Jカンパニー（以下PJ C）を設立し、JFSAの連帯事業のパートナーをAKBGからPJ Cへ移行することに同意しました。

1) JFSA海外古着販売

柏店で注文、荷受、保管、仕分けを行ない、各担当で販売を行ないました。インターネット販売では新たな担当事務局を決め、業務の見直しと改善に取り組んだことにより、売上は昨年度の2倍以上となりました。

千葉店では東葛センターから季節に合わせた品物の移動を行ない、販売しました。

2) 縫製工房(kar-khana)

店頭販売の数字を伸ばすことができませんでしたが、受注は依頼数、売上ともに昨年度を上回ることとで予算は達成しました。今年度もコロナの影響で派遣を断念しましたが、縫製工房とのやり取りはオンラインを通じて滞りなく行なうことができました。年間を通して、昨年度までの事業の運営状況を改めて見直す作業をしました。

3. 国内事業の推進

1) センター業務

①千葉センター

回収や送り出しスケジュール、選別待ち在庫状況を共有することで、優先順位を確認しながら作業に取り組みました。店舗の販売状況や売れ筋、企画を共有し、販売と連動した選別を行ない、迅速な品出しにつなげるようにしました。

送り出しを5回実行するにあたり、選別から梱包までの作業工程で簡略化できる点は見直しを行ない、効率的に行なうための工夫をすすめました。梱包作業にあたる人員の補充を行ないました。また、複数のスタッフが選別、梱包の作業を出来るようにし、状況に応じて作業の割り振りを行ないました。

選別待ち在庫が滞る状況は一定程度改善されましたが、回収が集中する時期には倉庫内が飽和状態になりました。全体的な人手不足があり、選別を途切れずに安定してすすめるための体制が必要です。

選別協力団体が定期的に作業に参加しました。オリーブハウスはスタッフ不足のため参加を休止しています。軒先市への出店、野菜の店頭販売を通し、団体の目的や活動への理解と連携が深まりました。コンテナ積み込みへの協力がありました。

②東葛センター

引き続き選別協力団体が定期的に作業に参加しました。倉庫内は7、8月の夏場は暑く、1、2月の冬場はとても寒く厳しい作業環境の為、担当者との協議をしてお休みしてもらいました。また、双方どちらかに体調不良者やコロナ感染者、濃厚接触の疑いのある人がいた場合は、その都度連絡をして大事をとって休んでもらうなどの対応をしました。

大型洗濯機と乾燥機を設置するためのスペース確保を確保すると同時に、不使用のものを整理して倉庫内の作業環境づくりに努めました。

2) ショップ販売

①千葉店（古着ショップ CHARKHA BAZAAR チャルカバザール）

売上については目標の87%、前年比96%と、予算を達成することができませんでした。来客数と

しては、前年比 101%となり、10代～80代まで幅広い層の来店がありました。

人手不足のため、国内古着、輸入古着ともに特に男性物について、仕分けから販売への商品準備が十分にできなかった課題があり、10代、20代の来客数は前年比 85%と減少しました。

一方で、30代、40代女性については前年比 113%となりました。同世代のスタッフが中心となって子ども服、女性服の商品構成・陳列を担い、SNS(Instagram、フェイスブック、公式ライン合計フォロワー数 3365名(9/30現在))を利用してアピールを行ないました。子ども服の売上は前年比 139%となり、国内古着全体の売上は前年比 102%でした。平日は主婦層の方、週末は家族連れや三世代での来店が増加しました。

軒先市(毎月第二土曜日開催)や野菜の設置販売、カレー屋さんのケータリングカー出店(月に1回)を行なったことで、常連の中高年齢層やご近所の方に定着し、来店のきっかけとなりました。

また、店頭やSNSでJFSAの活動を紹介することで、古着回収やコンテナ積み込みへのボランティア参加に繋がりました。

②柏店(古着ショップ kapre カプレ)

流行や価格など市場の状況を把握することと、継続的な情報発信を行ない、オンライン販売の売上増に繋がりました。また、注目される流行の商品を掲載することにより、それらを直接見るための来店にもつながりました。

業務用洗濯機の導入により、迅速に商品準備を進められるようになり、その後の作業も見直すことで作業時間を大きく短縮できるようになりました。

3) 街商販売(フリーマーケット、その他)

千葉銀座通りと赤羽公園のフリーマーケットに出店しました。千葉や東京では、徐々に大型のフリーマーケットやイベントも再開されましたが、現在のショップ販売における商品の取扱量や管理の流れ、またコンテナ送り出しも含めたセンター作業全体の状況を鑑み、出店会場は上記の2つとしました。ただ結果として予算を達成することができませんでした。理由は、当日の天気や会場全体の来場者数に依存するところもありますが、こちらとしては出店時の商品の準備等が不十分でした。新型コロナの感染状況を踏まえ、船橋駅北口デッキの支援バザールの開催を検討することができませんでした。

4) 販売協力団体による販売(委託販売)

アースマーケット(千葉市)、おおなみこなみ(千葉市)、中川クロス(市川市)での委託販売を行ないました。各箇所とも、常連のお客さんに支えられており、客層や要望に沿った品揃えにできるよう努め、定期的に商品の入れ替えを行ないました(2週間～3週間に一度)。

おおなみこなみで8月に行われたイベントでは、通常よりも商品数を増やして販売を行いました。アースマーケットでは、販売と合わせて古着の回収への声かけもされており、249キロの古着の寄付がありました。

5) 市民活動と連動した企画

①協力団体主催の企画 7月にパルシステム千葉主催の「子育てフェスタ」に出店、回収で参加しました。生活クラブ虹の街のデポー各店舗へ継続して出店しました。

②実行委員会参加企画

・ぽっぽの市：新型コロナの感染状況を考慮し、2021年11月から7月の期間、高浜ショッピングセンター(千葉市美浜区)で毎月小規模で開催し、古着の販売と回収を行ないました。

・新松戸中央公園チャリティーフリーマーケット：新型コロナの状況や実行委員会メンバーの各団体

の事情を考慮し、秋、春ともに開催を中止しました。

③ J F S A 主催バザール企画：千葉センター(開催会場の公園の工事完了期間が 2022 年 11 月まで延期されている)、東葛センターともに開催しませんでした。

④ リサイクル着物販売企画：和衣マルシェちば@まる空間は with Tomo's Café を毎月開催しました。また 1 月、3 月、5 月、7 月には、新規会場の幕張ベイタウン「絆」にて同企画を開催しました。しかし告知が不十分であり、来店者数が少ない状況が続きました。また商品である着物や帯などは現在回収を呼びかけてはならず、基本的にこれまで残してきた商品在庫から販売を継続していますが、販売するにあたり商品の内容が厳しくなりつつあります。

F R うらやす主催の「リサイクル着物市」は、昨年まで新型コロナの影響により開催が見合わせられていましたが、3 年ぶりに、4 月に 3 日間開催されました。

4. 広報活動と会員の参加

1) 会員の増減

会員は前年度より 16 人増えました。新規入会者は 199 名(前年度 244 名)でした。昨年度に入会した方には、会報発行や回収のお知らせを送付するときに継続願いを送りました。継続率は 87.1% (昨年度 89%) でした。

会員以外で回収に参加した方には、回収の案内、古着のゆくえについてのお知らせといっしょに入会の呼びかけを郵送しました(のべ約 13,600 人)。

	会員数(うち新規入会数)	前年比	口数	前年比	計画口数
会員(個人)	172 名(20 名)	+6 名	187 口	+10	180 口
支援メンバー(個人)	1,267 名(179 名)	+10 名	1,475 口	+36	1,480 口
会員(団体)	11 団体(0)	±0	11 口	±0	11 口
支援メンバー(団体)	8 団体(1)	+1	8 口	+1	5 口

2) 広報活動

会報を年 3 回発行しました。印刷部数を増やして、回収期間中にセンターに持ち込みに来た方たちに手渡しすることができ、対話のきっかけになりました。回収案内を回収期間が始まる約 1 か月前に発送しました。郵送の費用には、送っていただいた切手とハガキ(切手に交換)を使用しました。

会報や回収のお知らせにイラストによる紹介を掲載しました。

2021 年 11 月の定期総会と活動報告会は、アル・カイルアカデミーとオンラインでつないで行ないました。総会へのオンライン参加は 12 名、活動報告会へのオンライン参加は 17 名でした。団体会員やその他の協力団体で、オンラインでの報告企画を実施していただきました。

3) サポーターグッズ

2021 年度のサポーターグッズは、前年度にいただいた感想を参考に、手織りの生地カディを使い縫製工房で作ってもらったミニスカートにしました。サポーターグッズは、7 月上旬にパキスタンから到着の予定でしたが、6~7 月の大雨の影響などで製作が 1 ヶ月以上遅れたためにお届けが遅くなってしまいました。

4) ボランティアの参加

コンテナ送り出しの積み込みに協力いただきました。会報や回収案内の発送作業に協力をいただきました。新型コロナウイルス感染症の流行が拡大している時期には、参加の呼びかけを広く行なうことができませんでした。和服の専門知識のある方たちのグループ「なごみ」に整理や販売に協力いただきました。

5) 活動報告会・交流会など

団体会員、団体支援メンバーなどの協力を得ながら、回収、仕分け体験、オンラインを利用した報告会などを行ないました。

【2021年】

- 10月 都小学校2年生まち探検受入れ
生活クラブ虹の街おたかの森デポ4周年企画出店
淑徳大学オンライン授業講師
- 11月 グリーンコープ地域運動オンライン交流集会
生活クラブ茨城秋の展示会（取手センター）
生活クラブ茨城仕分けと交流会（水戸センター）
- 12月 生活クラブ茨城仕分けと交流会（取手センター）

【2022年】

- 2月 生活クラブ虹の街みつわ台デポーリニューアルオープン来賓参加
- 3月 生活クラブ茨城水戸センター・取手センター仕分けと交流会
バルシステム千葉野田センターオンライン報告会
八千代市のコミュニティFM番組にゲスト出演
バルシステム茨城 栃木 土浦館衣類回収と写真展示
- 4月 主婦の友社月刊誌「ゆうゆう」に団体紹介掲載
- 6月 バルシステム茨城 栃木 なかセンター衣類回収と写真展示
浦安市日の出南小学校の授業講師（FR うらやすといっしょに）
千葉経済大学の授業で講師
中央大学文学部社会学2年生の社会実地調査協力
- 7月 バルシステム千葉子育てフェスタ出店
生活クラブ虹の街佐倉センターオンライン交流会
生活クラブ茨城水戸センター・取手センター仕分けと交流会
グリーンコープワーカーズ連合会メンバー見学来訪
- 8月 生活クラブ茨城牛久センター仕分けと交流会
常総生協理事会活動報告
横浜市雙葉中学高等学校新聞部よりオンライン取材

5. 研修

事務局研修を2022年9月6日にオンラインで行ないました。

テーマ：パキスタン経済・社会を見る視点

講師：黒崎 卓さん（一橋大学経済研究所所長）

パキスタン社会の現状を、とりわけ教育に焦点をあてて長中期の変動の中で位置づけたお話をしていただきました。講師の黒崎さんはアル・カイールアカデミーを訪問されたことがあり、またJFSAにも来ていただいたこともあってJFSAの活動をよく知っていらっしゃいます。

6. 多様な団体との連携

1) 地球市民交流基金アーシアン

縫製工房にオーダーをいただいていた製品の納品を行ないました。生活クラブ虹の街の共同購入企画品のためのオーダーをいただき、2022年12月に納品の予定です。おすすめです。

2) NPOクラブ

理事としてJFSAから依知川が参加しました。NPOクラブが運営する「多世代交流拠点おおなみこなみ」で古着の委託販売を行ないました。回収は実施することができませんでした。NPOクラブから要請を受け、引き続き、ちばし地域づくり大学校の企画に参加することを決めました。

3) ワーカーズコレクティブ千葉県連合会

(企) ワーカーズ・コレクティブ紙ふうせんが、選別協力団体として継続して東葛センターで作業を行ないました。

4) ファイバーリサイクル四街道、ファイバーリサイクルうらやす、ファイバーリサイクル佐倉

・ファイバーリサイクル四街道・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。AKBG縫製工房への寄付をいただきました。コンテナ積み込みボランティアに協力していただきました。

・ファイバーリサイクルうらやす・・・活動収益金の一部を寄付していただきました。アル・カールアカデミーのコンピュータークラスへの寄付と、洪水被災地支援のために寄付をいただきました。一次選別ボランティアに来ていただきました。着物市販売企画を実施していただきました。

・ファイバーリサイクル佐倉・・・活動収益の一部を寄付していただきました。AKBG縫製工房への寄付をいただきました。

5) 団体会員、団体支援メンバー

回収協力団体では回収の広報を定期的にしていただき、メンバーの方たちの回収参加、イベントなどの出展、オンライン報告会の開催などに協力していただきました。

① 大地を守る会(回収協力団体)・・・コンテナ送り出し積み込みボランティアに協力していただきました。パキスタンの様子を伝える写真展を開催していただきました。回収お知らせチラシの会員の方への配布、広報紙での紹介、WEBでの広報に協力していただきました。

② パルシステム千葉(回収協力団体)・・・オンライン交流企画開催、広報紙での紹介、イベント出店と回収、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。ぽっぽの市に出店していただきました。

③ 生活クラブ・東京(回収協力団体)・・・広報紙に記事を掲載して回収のお知らせと活動紹介をしていただきました。

④ 生活クラブ虹の街(回収協力団体)・・・オンライン交流企画開催、配達便による回収(年3回)、デポー(生活クラブの店舗)での回収(年6回)と販売、回収お知らせチラシの組合員の方への配布に協力していただきました。ぽっぽの市に出店していただきました。

⑤ ポラン広場(回収協力団体)・・・回収に協力していただきました。

⑥ 社会福祉法人風の村・・・「虹と風のファーム」に千葉センター軒先市に出店していただきました。千葉ショップで野菜受託販売を行ないました。

⑦ 生活クラブ茨城(回収協力団体)・・・配達便による回収とその後の仕分け&交流会、学習会の開催に協力していただきました。

⑧ グリーンコープ・・・地域運動オンライン交流集会に参加しました。グリーンコープワーカーズ連合会の方たちがJFSAの視察にこられました

⑨ パルシステム茨城 栃木(回収協力団体)・・・回収の広報に協力していただきました。センターでの回収企画を3月と6月に実施していただきました。

⑩ 生活クラブ埼玉(回収協力団体)・・・回収の広報に協力していただきました。

⑪ 常総生協(回収協力団体)・・・配達便による回収を行なっていただきました。理事会での活動報告の機会をいただきました。

6) 他のNPO/NGOとの交流

児童労働反対世界デーキャンペーンへは、チャリティバザールの開催中止により参加しませんでした。企業組合あうんが毎月の軒先市に参加しました。

7) 企業や団体、学校との協力関係

- ・千葉センターの軒先市開催時に引き続き周辺事業者から駐車場を借用しました。
- ・幕張インターナショナルスクール6年生による回収が昨年度に続き実施されました。
- ・ユニモちはら台にて回収を行なう「スマイル・リユース」企画に参加しました。
- ・バリューボックスのチャリボン企画への参加準備を進めました。
- ・寝具のリース企業の東基(株)から、毛布、ベッドシーツなどの寄付がありました。
- ・エー・シー・エス債権管理回収(株)が、社会貢献活動として社員を対象にした衣類などの回収を行ないました。
- ・損保ジャパン千葉県では、前年度から相談をしていた社員の方を対象にした衣類などの回収の取り組みが始まりました。今後、参加対象を代理店にも拡大する計画です。
- ・千葉市美浜区のベイタウン幕張で、地域のコミュニティスペースを利用した回収を定期的に行ないました。
- ・環境街づくりNPOエコメッセから回収に協力をいただきました。
- ・前年度、研修企画として一次選別ボランティアを行なった日本女子大の学生と講師の方が、コンテナ積みボランティアに参加しました。

8) APF(互恵のためのアジア民衆基金)との連携、AKBGによる新規事業への協力

APF総会(オンライン)にムザヒル氏とともに参加しました。APFメンバーのハンサリム連合は、継続して古着回収を実施、引き続き韓国内で販売し、売上をアル・カイールアカデミーの運営支援金、ハンサリム連合の交流費に充てました。アル・カイールアカデミーの状況について報告しました。

7. アル・カイールアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

今年度は招日・派遣は計画しませんでした。

ムザヒル氏や学校関係者とオンラインで連絡を取り合い、お互いの状況やパキスタン大洪水発生に伴う、アル・カイールアカデミーが行なう被災地支援の状況について共有しました。

8. 危機管理の充実

1) 国内事業

定例のミーティングを行ない安全管理に努めました。新型コロナウイルス感染症の予防策を店舗や作業場、主催イベント等において定め実行しました。

2) 海外事業

リスクマネジメントに関して、新たな検討は行なっていません。

9. 業務について

業務内容について適宜点検、見直しを行ないました。一方、業務の量に対して人手不足の状況が続いており、事務局・アルバイトともに人材の確保が必要となっています。就業規則の見直しを行なうことができませんでした。